

連載 46
仕事について考える

札幌大谷大学社会学部
教授 平岡祥孝

お正月

から日は過ぎて、は
や来月のカレンダーを
に気がするよな時期になり
ました。時の流れは速いもの
です。拙い文章ですが、本年もご
読いただければ幸いです。

さて、文部科学省の調査によ
れば、来春卒業予定の高校生(国
公立)の就職内定率は10月末時点
で、前年同期比7.0ポイント増
の71.1%でした。ただし北海道
は52.2%で、沖縄県に次いで低
かったそうです(『北海道新聞』2
014年12月13日付記事)。北海
道でも採用回復の傾向が見られ
るものの、全国平均と比較すれば
かなり低いですね。

教育現場においては、就職希望
の高校生への就職指導・就職支援
をさらに充実・強化していく必要
があるでしょう。ですが、ただ内
定率という数値のみを追求して
いくならば、その反作用として離
職率の問題が深刻となってくる
のでは。たとえば、新規学校卒業
者の在職期間別離職状況(厚生労
働省北海道労働局)を見ると、北
海道では平成22年3月に高校を
卒業して就職した者のうち、3年

以内に離職した割合は51.0%で
した。ちなみに全国平均は39.2
%でしたので、北海道では、高校
生の離職率は相当高いですね。

多感な青春を過ごしつつも社
会経験の乏しい高校生が、未知な
る職業社会に移ることは、初めて
経験する最大のリアリティ・
シヨック。人間集団に身を置くこ
とに向けて、如何にソフトラン
ディングするか、させるか、これ
こそが離職率を抑えるうえでの
課題だと、筆者は確信しています。
様々な関係性の中で生きていく
ための実学が不足しているかも。

地域から若者の流出を防ぐた
めにも、高校卒業者が働き続ける
ことが出来る場を創り出すこと
が、地域一体としての取り組みと
して必要でしょう。それとともに
高校時代のインターンシップ体
験だけでなく、小学校・中学校時
代からの職場見学や職場体験も
地元への就職意識を高めてくれ
ると思います。地域社会の持続可
能な発展を担保していくために
も、若年者雇用対策は喫緊の地域
課題の一つとも言えるでしょう。

もし地元で雇用の場がなければ、
他の地域や都市に眼を向けな
ければなりません。もちろん就職
指導において内定を獲得するた
めのスキルやテクニクを教えよ
う。さらに必要なのは、その先
に待ち受けている仕事の世界と

は如何なるものであるかにつ
いて、就職希望者にどれだけ現実を
伝えることができるかというこ
とではないでしょうか。それが彼
ら彼女らの心の準備になるのでは
。また、あえて誤解を恐れずに
言えば、働き方多様な時代に
あって、人生設計を踏まえて正
規・非正規を問わず、自らの意志
と責任で働き方を選択すること
は、全く自由。けれども、万が一
、不本意な雇用形態となった場合
に、その状況から離脱して望む
べく職を目指していくためには、
何をどう準備していくかを、予
め教えておかなければならない
でしょうね。これはキャリア教
育の盲点でもあり、まさに人生
における危機管理の一つ。

いつもながらの筆者の独断と
偏見ですが、正社員採用前提の
過剰な適応主義に基づく内定率
重視の指導では、限界がある
と思います。働き続けるためには
何を身に付けるべきか。現実の
仕事の世界を意識した高校3年
間の学びを、如何に組み立てる
か。英知の結集を。



【ひらおか・よしゆき】札幌大
谷大学社会学部教授。英国の酪農
経営ならびに牛乳・乳製品の流通
や消費を研究分野としている。女
子学生の就職支援やインターン
シップ事業に携わってきた経験か
ら、男女共同参画、ワーク・ライ
フ・バランス、仕事論、生涯教育
などのテーマを中心に、講演やメ
ディアでも活躍。

ARTS



ちびっこギャラリー

浦幌幼稚園
ちゅういっぷ組(3歳児)の
みんな
♪七福神に変身!
3学期も
笑顔一杯・元気一杯で
あそびます!!



今年の
お正月は残念ながら薄曇りの中で

初日の出が拝めませんでした。日本海側の大雪がうそのような穏やかな天候に恵まれました。

しかし、6日の仕事始めは時ならぬ雨と雪で路面はつるつるの氷が張り、交通事故も多発するなど新年交礼会にご出席いただいた方々は外出するのに大変だったろうと思います。お疲れ様でした。

今年フランスの週刊誌「社や警官、食料品店などを襲う連続テロ事件が発生し罪もない多くの犠牲者を出す年の始まりとなっていました」。

宗教の考え方はいろいろであり、相手を侮辱する報道は許されないという意見もあります。テロ行為こそ本当に許されない残虐行為です。

殺害することを持って自

分の主張を通そうとする宗教などあるのでしょうか。

言論の自由や報道の自由を守ろうとする人たちが世界各国の首脳達と350万人という参加者を集めてテロ行進しフランスだけではなく世界中の人たちがテロ攻撃へ「NO」を突きつけ、決してテロには屈しない意思を表したことは私も同感するところです。

安倍首相の今年の年頭所感「経済再生を念頭に日本の将来を見据えた『改革断行の一年』とすると述べ、アベノミクスで地方経済の活性化や中小企業支援に全力を挙げるとの姿勢を示しました」。

景気回復の暖かい風を全国津々浦々まで届けるとも言い切りましたが、昨年も同じフレーズを使っているにもかかわらず、まだ地方へは届いていないのが実感です。

国では昨年の十二月に「まち・ひと・しごと総合戦略」が閣議決定され、2015年より五カ年計画で地方での若者の雇用を30万人創出し、今まで地方から首都圏へ向かう若者10万人を六万人減らし、逆に首都圏から地方への転出者を四万人増やして首都圏一局集中を廃する数値目標も示されました。

そのために地方自治体には「地方版総合戦略」の策定を今年度中の努力義務としました。地方はこれまで決して手をこまねいていた訳ではありませんが、浦幌町としては「後期まちづくり計画」の策定期と合致することになりますので、「地方版総合戦略」と整合性のとれた計画にしていきたいです。

皆さん今年の初笑いはどうでしたか。

先日テレビで笑いは健康

の秘訣という番組を見ました。年を重ねると自然と笑いになりませんが、自然に笑えなくなっても人間無理をすれば笑うことは出来ます。

「笑いヨガ」というヨガがあります。「笑いの体操」と「ヨガの呼吸法」を組み合わせたそうですが、わざと大きな声で笑ってみることは全身の筋肉を使い、しわを伸ばし、たくさん酸素を取り込むことにより、精神をリフレッシュする効果があり、認知症の防止にもなるそうです。

冗談やユーモアなどに頼らない、ただ笑うだけなので費用もかかりません。

はじめはちょっと躊躇してしまいましたが、今年一年中「笑う門には福来る」を実践してみませんか。

浦幌町長 水澤一廣